

カモガヤ

Dactylis glomerata

イネ科



カモガヤの穂。出始めはクサヨシに似ている

名前の由来

英名のCock's foot grassのCock（鶏）をDuck（鴨）と取り違えて訳したため「カモ」とついた。牧草名オーチャードグラス。漢字名：鴨茅

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ

形態的特徴

高さ80~120cm、根元の1ヵ所から多数の茎が伸びて（株立ち）立ち上がる。よく大きな群落をつくる。葉や葉鞘には毛があり、ざらつく。葉は細長く40cmほど、縦方向に走る中央の脈でVの字型に屈曲する。花は白緑色の穂状で、微紅色のやくが目立つ。茎上部で互い違いに出た柄の先に密

集してつき円錐状になる。

類似種と見分け方：他のイネ科草本。

花の形体で見分けるため、開花時期以外での区別は困難。カモガヤは穂の出しはじめの姿がクサヨシに似るが、特に株根元の葉がやわらかく扁平になるのがカモガヤの特徴。

生育環境・分布

牧草地で栽培されており、道端や野原、荒地などに広く野生化している。

分布：国外分布は、ユーラシア大陸が原産と思われ、世界中の暖帯~温帯に広く分布する。タイプ原産はデンマーク。国内分布は、日本全土。北海道内分布は、全道。

十勝地方では、牧草地で栽培されているほか、道端や草原、荒地などに広く野生化し、ごく普通に見られる。



カモガヤ

生活史

開花時期：6~8月。開花までの年数：不明。寿命：多年草。

他生物との関わり

不明。

興味深い話

■明治初期にアメリカから移入され、牧草のオーチャードグラスとして広く利用されている。

■成長が早く、地下茎を広く張り巡らせる性質を利用して、道路法面などの表面侵食防止のために植えられる。各地で牧草地から逸出し、雑草化して問題になっている。

■花粉症の原因にもなり、イネ科による花粉症を「カモガヤ

ヤ花粉症」ともいうほど、イネ科が原因の花粉症での主要因にあげられるが、実際は他のイネ科花粉も要因になる。花粉の飛散は数キロ以内で、本州以南での花粉飛散時期の5~7月は梅雨にあたるため湿度が高く花粉は飛散しにくい。北海道では梅雨がなく比較的乾燥しているため花粉が飛散しやすく、イネ科が原因となる花粉症が多い。

生活サイクル

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|-----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 開花期 | | | ■ | | | | | | | | | |
| 結実期 | | | | ■ | | | | | | | | |

参考文献

「改訂版 牧野新日本植物図鑑」牧野富太郎 北隆館 1989

増補 日本イネ科植物図譜 長田武正 平凡社 1993

「日本帰化植物写真図鑑」清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七 全国

農村教育協会 2001

「新版 北海道の花(増補版)」鮫島惇一郎・辻井達一・梅沢俊

北海道大学図書刊行会 1993